

# JIA NAGANO-KEN CLUB

Vol.86  
2010  
06.30

JIA長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>  
[jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](mailto:jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)



2010年度通常総会



2010年度通常総会

## 本来の「建築成熟社会」を目指して

構造不況業種などという不名誉なラベルを貼られてから、もうどれくらい経っただろうか。ひたすら造り続けている内にいつの間にか十分な量の社会的ストックを抱えて、日本の建築事情は「スクラップ&ビルト」から「再生＝リノベーション」へと確実にシフトしようとしている。既にシフトしてしまったと言った方が正しいかもしれない。

私が建築設計を志したとき、40年後に「建築成熟社会」がやってくるなどと夢にも思わなかったことは、ある意味滑稽である。今から見ればこんな当然のことを「誰も教えてくれなかつた」からと言って、気付かずに、あるいは気付かないふりをしつつ、「建築」という社会資産を世の中に送り出してきた。

自分としてはできる限り良質なものを造ってきたという自負はある。しかしながら今、目の前に広がる日本の建築群を眺めて、30数年前に初めて自分の目で欧州の街並みを目にして実感した「建築成熟社会」と比べて凡そかけ離れた街並みに、忸怩たる思いを禁じ得ないのは、私ばかりではないはずだ。

既に十分な量に達しているとされる社会資産、社会ストックとの建築資産はしかし、その質においては、今後何十年或いは百有余年に亘る長期間の使用や社会的評価に耐えられるだけの性能やデザインレベルを有しているとは言い難い。大量生産、大量消費に慣らされた悪い意味での日本の水準に低迷しているそれらの資産を、今後良質なものに変えていくという、気の遠くなるような膨大な作業が我々を待ち受けている。それを乗り越えない限り、日本における本来の「建築成熟社会」の実現は

JIA長野県クラブ会長 赤羽吉人

望むべくもない。

これから日本社会にそれを成し遂げるだけの余力が生まれるのかという疑問はあるが、その部分を突破しないことにはその先の進展は望めない。

「スクラップ&ビルト」を是とする価値基準に戻ることはある得ないのだから、私達も腹を括って「建築設計は『再生』と見つけたり！」を地で行くことに今後の展望を見いだす努力をすべきであると思う。勿論専門家としての反省の上に立っての事である。

折しも日本における建築社会システムの根幹をなす新たな法制度の必要性が俎上に載り始めている。最低基準を守るだけの建築基準法に頼っていて、市民社会から託された専門家としての役割は果たせるのか？ あるいは、社会に対して説明責任のとれる建築家であるためにはどうすればいいのか？ 悩みは尽きないし、ぶれない軸も見いだせない。

建築家は建築主の利益と社会の利益をバランス良く実現する社会的役割を担っているはずであり、建築家が社会にとって必要とされる背景にはそういった役割への期待がある。しかし現実はどうなのか。建築主に対し、次世代に引き継げる資産を残すことは今の時代を生きる私達の責務であると理解してもらう努力を積み重ねているか？

本当の意味での「建築成熟社会」に向けて私達が為すべきことは山積しており、今その真価が問われようとしている。果たして生き残れるだろうか？

## 新年度を迎えて

4月24日、長野市「ホテル国際21」において、JIA長野県クラブの2010年度通常総会が行われ、2009年度の事業報告・決算報告の承認に続き、2010年度の事業計画・予算の議案が提案されました。地域と連携する「外向き」の姿勢の強化、同時にクラブ事業を見直しながら会員・賛助会員の交流と会員資質の向上、あわせて、2011年9月・世界中の建築家を日本に迎えて開催される国際大会・UIA東京への協力、本部・関東甲信越支部との積極的交流などについて、赤羽会長から2010年度事業計画が発案され、予算案と共に承認されました。また、その他の議案として、会の活動をより活発に行う為に、今まで積み上げてきた「活動積立預金」の有効活用に関する議案が提出され、会の活発な活動を目的とするならば「活動積立預金」の主旨に合致するとの意見が大勢を占め、今後、使途を議論しながら適切

な運用をする事で承認されました。今回この議案が承認されたのは、現在の経済動向や会員数・会費の収入減など、活動の衰退を考えざるを得ない時勢だからこそ、JIA長野県クラブの活発な活動を推し進めなければならぬという意思の表れです。色々な活動に対する更なる会員の積極的な参加が望まれます。

総会に続いて、会員集会が「JIA活動と私&私たち」と題して行われました。会員と賛助会員との連携について意見が交換され、建築・技術・情報のサポーターとしての賛助会員と、会員の交流を更に深める方向性が確認されました。両者一丸となった活動をとおして、JIA長野県クラブがより社会的な存在となる様に、共に手を携えて行きましょう。

(広報委員会 山田健一郎)

## 新年度に思う

平成22・23年度の体制が総会により、2期目となる赤羽会長体制の継続となりました。私も副会長の重責を引き続き仰せつかり身の引き締まる思いです。

これらの2年間、私自身は会員及び賛助会員のあり方、そして期限が迫ってきた公益法人改革に対する考え方を整理し、方向性を明確にすることが長野県クラブの課題となるように思います。そして県クラブに参加する会員及び賛助会員が、日常の活動の一つひとつを有意義に感じて参加できるよう努力をしていきたいと思います。

さまざまな目的を持って入会した一人一人の会員は、自身がこの会を運営するという参加意識が必要です。個人の思いと異なることもあるとは思いますが、多くの会員と共に苦労しながらも、そこを乗り越えて会の事業をやり遂げる所にそれぞれの達成感や充

会員担当副会長 水野 登

実感があるのではないですか。積極的に参加し、思うところを十分述べて多くの仲間と議論することが肝心ではないかと自戒も含めて思います。

公益法人改革についてまだその方向性が見てこないところですが、県クラブと本会・支部との関係がどうなるかはこれから私達の活動に大きな影響を与えます。地域会をJIAの中で然るべき位置付けを望む所ですが、今の県クラブの活動は公的活動より会員の為の活動が主となっているように思います。ただし、長野県内の会員が県クラブでの活動を行いつつ、本会・支部との関係が構築できる方法を模索することが必要ではないでしょうか。より身近でJIA活動やそれに通じる活動が出来るよう、全員で知恵を絞り県クラブが素晴らしい会になるよう、会員の皆様と努力していきたいと思います。

## また新たな気持ちで

当クラブも2010年の新体制が発足しました。赤羽会長の下に一丸となって前期を受けて更なる進化が求められました。一言で継続と進歩でしょうか。この1期2年は特別な時期です。支部体制には赤羽会長が副支部長となり、また来年日本開催の2011UIA大会では実行委員長にもなって、長野県クラブもJIA組織として大きな役割を担うことになりました。この機会にこそたかが地域・されど地域の意気込みが大切かと思います。私達は日夜愛すべき信州の建築文化に貢献すべく生業を続けていますが、ともすると地域主義に囚われ全体を見ようしません。地域に軸足を置くのは当然ですが、一方では広く世界を意識して自分たちの役割を理解しなくてはいけません。井の中の蛙ではい

総務・事業担当副会長 川上 恵一

けないです。地球に限界があると気づいて久しい昨今、縮み志向の建築の未来は決して明るいものではありませんが、世の雑音におもねることなくしっかり足元を見つめ、今やらなくてはいけないことを確実にやることでしょう。それは何か?独りよがりに陥ることなく、いろいろな意見を聞いて、譲り合いから始まる当クラブの連帯でしょう。地域固有のテーマを掘り下げての更なる情報公開と合意形成でしょう。

さあ一人の指揮者のタクトに合わせて最高のハーモニーを奏でようではありませんか。日本や世界の聴衆に感動を与えると信じて。

## 新年度を迎えての抱負

例年より2週間程早く開催された通常総会で赤羽会長の2期目が新たに始まり、私自身も引き続き副会長に重任されました。自分の力不足を痛感させられる2年間で、本当に相応しいのか自問自答する日々です。

この2年間を振り返ってみると、何と言ても一昨年秋のリーマンショック以降の世界的な不況による影響で建設投資の大停滞を招いたということに尽きるような気がします。一時は150万戸あった住宅着工件数が昨年は80万戸を切る、40年ぶりという水準まで落ち込みました。昨年の総選挙で建築関連法規の抜本的な見直しを公約に掲げた民主党が政権を握り、我々に淡い期待を抱かせましたが、ご存知のように目を覆いたくなるような迷走の末に完全に官僚組織に取り込まれ、大きな期待はできそうもない状態です。そして更に追い打ちをかけるかのような「コンクリートから人へ」というスロー

広報・UIA大会担当副会長 山口 康憲

ガンド公共事業が大幅に削減され、業界の大規模な縮小が必然という政策が取られています。当会でも会員、賛助会員の減少傾向が顕著になってきました。

赤羽会長は今年度の活動方針として、第一に事業内容の再検討と賛助会員を含む会員間の交流促進を掲げました。私なりに解釈すれば、まず自分たちの足下を見つめ直し、切磋琢磨し自己研鑽を積み、我々全員の資質の向上に励むことと、地域の風土、文化を理解し技術の継承に寄与し経済の循環に努めるというような、地域に根ざした活動を通じて良質な情報を発して行くところから始めようという事だと思います。

微力ではありますが、皆様と共に考え、悩みながら会の活性化に努めたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

## 今年度の抱負・活動方針

本年度、若輩者の私が、副会長という大役を受けてしまつて皆様の活動の足を引っ張らないよう身が引き締まる思いがしています。力量の無い私にとって限られた事しかできませんが、皆様の助けを借りて何とか活動したいと考えています。特に、担当副会長という立場の、まちづくり委員会と出版委員会の委員長はじめ委員の方々にはご迷惑をかけるかも知れませんが、よろしくお願ひいたします。両委員会は今まで委員として参加した経験もあり内容も解っているつもりですが不足の部分もあるかと思います。しかし、優秀な委員長にフォローを頂きながら活動したいと思います。各委員長の特徴が出るような委員会活動がベストと考えていますので、各委員長の積極的な活動を望んでいます。

まちづくり・出版担当副会長 丸山 幸弘

また、赤羽会長の補佐役という立場ではありますが、補佐というよりは必死に付いて行くことしかできないのではと考えています。他の副会長と共にスクラムを組んで長野県クラブのスムーズな活動ができる事が一番と思っています。本部・支部の運営がフランフランする中でUIA大会が迫って来ています。地域会で活動していますと本部・支部の活動が見えて来ない状況です。しかし、実は身に迫っているのです。目の前に来て慌てるよりも事前に情報を把握し地域会の体制を整える事が重要だと思います。やるべき事が山積していますが確実に実行することで充実したクラブ活動ができると思いますので、会員皆様の積極的な参加を望むところです。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

## 総務委員会 今年度の抱負・活動方針

今年度から総務委員会を担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひ致します。会員・賛助会員にとりまして皆が楽しく活動に参加できるように、また長野県クラブ全体の動きをできるだけ知っていただけるように、会運営の総務全般に携わっていきたいと思います。

具体的には、①「会員・賛助会員への早い情報提供」年間を通じて相当な回数になる各委員会の議事録を会員・賛助会員へタイムリーに報告していきますので、お気軽にご意見をいただければと思います。②「活動への参加者拡大のためのサポート」事務

委員長 林 隆

局・各委員会と連携しながら各イベントの日程等を早めにアナウンスし、皆で説いていける雰囲気づくりができると思います。③「開かれた総務委員会」会員・賛助会員の皆様のオブザーバー参加は歓迎です。年に7回ほど委員会開催を予定していますが、その場で会の活動の方向性が決められていますので、皆でいっしょに考えていただけるよう呼びかけています。④「CPDについての案内」自己研鑽のための情報提供、登録建築家としての必要単位数確保のための案内などについても考えていくたいと思います。

## 広報委員会 今年度の抱負・活動方針

広報委員会の重要な活動の3本柱として、会報の企画・発行、俱乐部ニュースの企画・発信、ホームページの企画・運営があります。①会報(会員向け+一般向け(特定))は長野県クラブの活動や動向を紹介するような性格があります。②俱乐部ニュース(会員向け)は長野県クラブの諸事業や委員会活動、支部での動き等を会員にメール送信しています。原則として毎月1発信、各委員会終了後等に随時、議事録を含めるべく多くの情報を迅速に発信していきたいと思います。③ホームページ(一般向け(不特定多数)+会員向け)は大幅にリニューアルしました。会員名簿を含め、ホームページとしての体裁はようやく完成しました。多くの人が直接アクセス可能な重要な情報源です。長野

委員長 勝山 敏雄

県クラブの情報はもちろんのこと、賛助会各社の一般向けのイベントや各地域の会員の関与するイベントや講演会など多くの情報を寄せていただきたいと思います。また、会員が直接書き込める見学会のお知らせのページは、各会員個人の完成見学会やイベント等の情報をアップできるようにしております。書き込みは自由ですので大いに利用して頂きたいと思います。

各委員会との連携を図り、クラブ事業・委員会事業や多地域会との交流事業・本部支部事業等の情報収集と会員への情報発信を推進していきたいと思います。

## 出版委員会 今年度の抱負・活動方針

出版委員会の主な活動は、長野県クラブにふさわしい出版事業の研究と「信州の建築家」をテーマとした出版の企画・推進です。具体的にはこれまでに6集を刊行した「信州の建築家とつくる家」第7集以降の発刊です。多数の会員のさまざまな活動や考え方を具体的な一冊の本という成果物としてまとめ、社会に問うていくという活動は一見シンプルですが、その内容は大変重くかなり奥深いものがあり、未だ発展途上で完成形の見えない活動なのかもしれません。

出版物の目的は、外部に対しては信州の建築家の存在、JIAの存在を社会に発信できる物であること、また、内部に対しては会員同士の切磋琢磨を促し、相互理解を深めることのできる物であることです。出版活動は継続して行うことにより、これらの効果が

委員長 清水 国寿

出てきます。そしてアンケート調査結果を会員の意志と受け止め、今年も昨年に続き年内の出版を目指していきます。

しかし、発刊することを目的化せず、常に内容第1主義を念頭に置き活動したいと考えます。具体的には今年の出版物はただ個人作品の羅列とするのではなく、何か一つの思いや哲学なりが出版内容の底流に感じられるようなものとしたい。個人作品の集合体であっても、その括り方に大きな一つのテーマが感じられるような本としたい。これにより出版物としてより質の高いものを目指せると考えています。

正会員・賛助会員の皆さんのご協力により、今年も社会によりよいインパクトを与えるような出版活動を行っていきたいと思います。

## 会員委員会 今年度の抱負・活動方針

最近では本部からの運営論議が長野県クラブ内でも多くなり、正会員と賛助会員のコミュニケーション不足が指摘されてきました。おののが同じ金額負担でJIA長野県クラブの活動と同じ目標で支えて長野県の建築文化を高めていく理念を再確認して、会員委員会の出発点にしたい。

具体的には今まで「夏の行事」「冬の行事」を会員委員会が主体に進める事と「夏のセミナー」「冬のセミナー」と改称し、会員同士の建築を通じた交流の場にする。

委員長 新井 優

また、新企画「会員の集い」では、自分たちの歩む道を切り開いてきた先輩に学ぶ機会とする。本音で相談し会える関係づくりこそが交流と思っている。

3月の建築祭の「会員作品展」については、賛助会員の参加方法や各地域での開催等、様々な課題を理解しながら企画を組み立てていきたい。

どちらにしても、本年度の会長方針でも示された正会員、賛助会員の垣根を越えた交流を活性化していく事を目標として活動に取り組んで行きたい。

## 事業委員会 今年度の抱負・活動方針

今年度も引き続き事業委員長を仰せつかりました藤松です。宜しくお願ひいたします。新しいメンバーも加わり皆で「建築祭」を盛り立てていきたいと思います。の中でも卒業設計コンクールは20回を迎えます。この歴史あるコンクールは数年前より公開審査となり作品も自由に見学できます。しかし、広く市民に知れ渡っているわけではありません。

委員長 藤松 幹雄

これを機に、より多くの方に見学頂くよう工夫したいと思います。併せて文化講演会、会員作品展を通して広くJIA長野県クラブの理念を理解していただく「建築祭」にしたいと思います。

## まちづくり委員会 今年度の抱負・活動方針

建築家には、「まちをつくるための総合的発想」が必要だと思います。

まちづくり委員会の活動が、古く、貴重な建物の保存・記録活動に留まらず、生きた資産として活かす方法や、まちを活かす建築のありようを、会員の皆さんと考える場となることを目指して行きたいと思っています。

毎年恒例となっています並みウォッチングでは、以前作成した「残したい建物リスト」に取り上げられた建物の一部を見学しその建物のおかれた状況や環境を確認・認識し、保存やその建物を核にしたまちづくり等について意見交換をすることや、会員が取り組

委員長 西澤 広智

んでいるまちづくりや保存活動が進行している現場を見学し、関係者から直接説明を聞き、意見交換を行うことを行なっていきたいと思っています。まちづくりウォッチングを通じ、会員・賛助会員・事務所所属員また家族との親睦を深め、他団体との連携も検討していきたいと思っています。

その他、歴史的建物等の調査・研究・記録の一環として、「残したい建物リスト」を取り上げられた建物を中心に、ホームページ「建築100選」のデータベース化を進めて行きます。

## UIA2011 TOKYO大会準備特別委員会 今年度の抱負・活動方針

委員長 片倉 隆幸

3年に一度開催される国際的な建築の祭典「国際建築家連合(UIA)大会」が2011年9月25日(日)~10月1日(土)に東京で開催されることになりました。約1万人もの建築家、技術者及び建築関連企業関係者が世界中から参集する大規模な国際会議で、わが国の建築界から近未来のあり方を世界に発信し、PRする絶好の機会となります。

大会のテーマは「DESIGN2050」

2050年までに放出CO<sub>2</sub>を半減する数値目標が掲げられ、また近未来に「超高齢化社会」が訪れます。

「DESIGN2050」をテーマに都市、建築、環境を題材とした基調講演、テーマシンポジウムを、国際的に著名な建築家や文化人を招いて行なうと共に、開催都市東京の文化的多様性の紹介等多くの建築見学ツアー、交流ツアーが企画されています。

委員会の担当する長野県のツアープログラムは9月30日(金)、10月1日(土)

テーマ 山岳都市の民家とまち並み探訪+現代建築

プログラム目的は

中世から現代までの木造の伝統建築と民家、まち並みの見学を通して、日本の中山間地における生活の様子を探り、地域の人々との交流を計る。

また伊東豊雄、柳澤孝彦、藤森照信、古谷誠章の現代建築を訪ねる。を企画しております。

是非とも多くの会員の皆様に参加登録をしていただきまして建築家がより良い役割を果たせるように大会への積極的な参加と支部企画のシンポジウム等支部活動への協力を含めまた日頃の設計活動を通して積極的な活動をしていきたいと思います。

# 賛助会だより

## 賛助会だよりが変わります。

今年度から内容を一新し、賛助会だよりを賛助会員の会社の紹介ページとしていきます。数多くある賛助会員のそれぞれの会社の事業内容などが皆さんに知れ渡っていない面もあり、各々の会社の情報提供をこの紙面を使っていきたいと思います。建築・技術・情報のセンターとしての賛助会員と、会員の交流を紙面を通して深めることができればと考えています。

### 防水工事のパイオニアとして

私たちの会社は、昭和5年に瓦工事を主に創業されました。昭和20年に株式会社になり、防水工事(アスファルト防水・耐酸モルタル・アスモル)も営業種目に取り入れました。今では防水工事業のパイオニアとして先頭に立って頑張っております。会社発展の為には自社での技術者を育成しなければなりません。13名の1級技能士と当社専属で仕事をしている1級技能士は延べ34名(アスファルト・

坂田工業株式会社 坂田 守夫

改質アス・合成ゴムシート・塩ビシート・FRP・シーリング・ウレタン・注入)登録基幹技能者1名、防水管理技術者2名、1級建築士1名、1級施工管理技士1枚がおります。当社は技術者集団です。(他の防水業者と違い)どんな要望にも技術力を持って立ち向かっております。今後は今まで以上に改修工事の割合を多くする予定です。皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

### 良質な建築材料の供給を目指して

この度JIA長野クラブ賛助会に入会させて頂き誠にありがとうございます。

靈峰御嶽山を望む木曽谷の厳しい気候の中で育った木曽檜は抜群の弾力と粘りを持つ最高級建築材です。弊社は創業以来半世紀あまり「木曽檜」を取り扱わせて頂いています。この間数々の素晴らしい特徴を持つ「木曽檜」をいかにご要望に応じて提供できるか、この点に力を入れて業務を行ってきました。弊社では関連会社

株式会社勝野木材 勝野 智明

(有)ヤマカ木材と協力し、伐採から製材・乾燥まで一貫して行い、近年は社寺建築用の天然木曽檜のみならず人工林間伐材きそひのき「背割りなしの檜柱角乾燥材」の量産化、また木曽産の「カラマツ」などの、乾燥ノウハウも確立し新製品として販売しております。

自然環境に配慮した循環型の木材利用を進め造林・育林事業にも力を入れて良質な建築材の安定供給を常に目指しています。

### LOHASのある暮らしへ。

浅間山から噴出した軽石を使い、軽石ブロックの製造・販売からスタートした弊社は、環境との調和をテーマに「地球と人にやさしい」製品を開発・販売致しております。

東京の本社にてココナツヤシの実の殻を原料としたココ炭の販売、屋上緑化基盤ココターフの販売・施工、LEDの販売、不動産業務、軽井沢営業所にて一般・別荘建築工事、外構・エクステリア工

浅間軽石株式会社 伊勢 政美

事、また別荘管理も致しております。

昨年までは本社が担当でしたが、今年より軽井沢営業所が担当する事となりました。

活動に積極的に参加させて頂きたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

### For Presious Life あなたの大切な暮らしのために 株式会社INAX 松本営業所 奥田 海太

二十世紀は科学技術が高度に発展し、私たちの暮らしが飛躍的に変化した時代です。特に戦後は洗濯機、冷蔵庫などの家庭電化製品が急速に普及し、自家用車に乗る人も増加の一途をたどりました。確かに生活は豊かになりましたが、そのかわりに膨大なエネルギーを使うライフスタイルとなってしまいました。

このような状況のなかで、「豊かさ」の本質とは何かを考え始めています。現在、開発の方向性は、有限の資源を前提としたものに

シフトしています。そして、商品に求める尺度は、大きく変わりつつあります。

INAXがつくり提案する商品は、エコロジーやユニバーサル、そして生活に対する限りない「質の追求」の上に成り立っています。

あなたの大切な暮らしのために、日本の居住空間にあったくつろぎとこころの豊かさに満ちた空間をINAXはお届けしたいと考えています。

## ■今後の行事予定

7月20日(火) ..... 上田情報ビジネス専門学校雑学講座  
7月31日(土) ..... 夏のセミナー 崖の湯温泉 茜宿にて  
8月28日(土) ..... まちなみウォッキング(予定)

会員同士の交流のために「建築を語り合う」テーマで会員委員会が企画します。多くのご参加をよろしくお願いします。

## ■新入賛助会員のお知らせ

(株)勝野木材

〒399-5301 木曽郡南木曽町読書1750

TEL 0264-57-2532

<担当者>勝野 智明

## ■会員のお知らせ

(株)アーキディック 児野登さんが設計を手掛けた県の知的障害者厚生施設「西駒郷さくら寮」がこのほど日本建築学会北陸支部の第20回「北陸建築文化賞」を受賞しました。  
おめでとうございます。

編集後記

4月24日の通常総会で赤羽会長の2期目が新たに始まり、新しい体制でスタートしました。副会長はじめ各委員長ともかなり意欲的にそれぞれの事業に取り組み始めました。さまざまな目的を持って入会した一人一人の会員が、自分がこの会を運営するという参加意識が必要です。これから2年間、全員で知恵を絞りより身近でJIA活動や地域に根ざした活動ができ、長野県クラブが素晴らしい会になるよう、皆で努力していきたいと思います。

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／勝山敏雄 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303  
発行人／赤羽吉人 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail [jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](mailto:jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)